

1. 主な研究内容について

身体障がい者のADL動作に関する研究や、中枢疾患における上肢・手指の運動精度に関する基礎的研究、福祉用具の開発に関する研究などを中心に実施しています。また、近年は障がい者の災害対策に関する研究にも取り組み、多くの研究疑問に関する検証・実証を行いたいと考えています。そして、臨床における客観的な評価・治療プログラムの発展に寄与することを目的に取り組んでいます。

主なテーマ

- ・障がい者のADL動作と生活環境に関する研究
身体に障がいのある方はどのような環境が過ごしやすいのかなど、環境のデータや筋電図等の生体データをもとに研究・解析をしています。
- ・上肢・手指の運動学習・運動精度に関する研究
中枢疾患における麻痺手・上肢の運動精度及び脳機能連関、運動学習による上肢機能の効果的介入等に関し生理学的データを基に研究しています。
- ・福祉用具の研究開発
障がいのある方が在宅・施設において、より安全で利用しやすく、自立度の改善・介護負担の軽減が図れる福祉用具の研究及び開発を行っています。また、近年はAIを活用した関連機器のDX化についても検討し、それらを活用した災害など緊急時に役立つ福祉用具・デバイスの開発も実施しています。
- ・障がい者の防災に関する研究
災害時における障がい者の避難環境に関する研究をしています。特に避難所・福祉避難所などのバリアフリー環境やUniversal Designを中心に調査研究を実施しています。

2. 主な共同研究先

大阪公立大学工業高等専門学校、大阪公立大学都市科学・防災研究センター、訪問看護ステーション、国立病院機構南京都病院、など

3. 今まで指導した学位論文名

2023年度：避難所における障がい者のADL支援に関する研究

2020年度：ALS患者における意思伝達装置入力のためのスイッチ動作の解析

4. 主な論文

- ・福田望琴, 小島久典：避難所における障がい者の日常生活動作に関する研究, Journal of Environmental Rehabilitation Science, 4, 1-7, 2023
- ・上田慶, 小島久典：災害時ロジスティクスに関する業務の実践報告, Journal of Environmental Rehabilitation Science, 3, 1-4, 2019
- ・Kojima H, Inumaru T, Ueda T: Evaluation of evacuation environment of disabled persons in designated shelters, Journal of Environmental Rehabilitation Science, 2(1), 1-5, 2018
- ・Kojima H, Shimizu J: The relationship between the heights of the push switch in the sitting and standing positions, Journal of the Tsuruma Health Science, 34, 91-99, 2011
- ・小島久典, 岡田行央：手指押し動作における手関節の影響, 医学と生物学, 153(10), 457-462, 2009
- ・Kojima H, Inumaru T, Abe R, Ueda T: Prototype Quantitative Mechanical Device for Measuring Tactile and Pressure Sense: Measurement of Movement Precision in Hand Palsy Associated with Cerebrovascular Disease, Journal of Rehabilitation and Health Sciences, 5, 39-41, 2007

5. 現在の指導している大学院生数

なし

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

様々な事柄に興味・関心を持ちながら、じっくりと主体的に探究していく方を歓迎します。そして、リハビリテーション・作業療法・関連分野における疑問を科学的に探索する意欲ある方を希望します。近年の研究は、AIなど最先端技術の活用やその関連技術を用いた応用開発が期待されています。現在の研究テーマをさらに深化させるため、関連分野の皆様とDX化・ファインチューニングを目指し取り組んでいます。業務との兼ね合いもあるかと思いますが、ZOOM等積極的に活用し一緒に研究を進めましょう。